愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	幼児理解の理論と方法		
担当者(Instructors)	後藤 永子	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	1	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

保育における子どもの姿を通して、幼児理解の理論と方法を学ぶ。子どもの発達・成長を基に、一人ひとりを理解することは、保育にとって不可欠である。多くのエピソードや事例から遊びや生活を通して、子どもがどのように物や人との関わりを学び、自ら考える力を身につけていくかを理解する視点と方法を学ぶ。その中で「気になる子ども」についての理解と指導についても学ぶ。さらに、家庭との連携とこれからの課題についても学ぶ

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義と、事例の場面から保育者と子どもの思いをディスカッションを通して共通理解していく。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	保育における幼児理解とは	子どもとは何か、幼児理解の基本を理解する	□
第2回	発達を基にした幼児理解のための視点と方法	子どもの日々の育ちから、発達を理解する	□
第3回	遊びを通した幼児理解　(1) 物や人との関わりの遊び場面から	玩具・遊具との関わり、大人との関わりから幼児理解をする	□
第4回	遊びを通した幼児理解　(2) 共同遊びと連合遊びの場面から	遊びを通して子ども同士の関わりから人間関係を学ぶ	□
第5回	生活の中での幼児理解　(1)仲間づくりやトラブルの場面から	さまざまな子ども同士のトラブルから保育者の関わりを学ぶ	□
第6回	生活の中での幼児理解　(2) ルールづくりや話し合いの展開の場面から	子ども同士の関わりの中から育ちの力を理解する	□
第7回	個人差と「気になる子ども」の理解と指導	一人ひとりの個人差の理解と「気になる子ども」の対応を学ぶ	□
第8回	保育における幼児理解と指導としての課題について	保育における幼児理解の現状から、保護者との連携とこれからの課題について理解する	□
第9回			□
第10回			□
第11回			□
第12回			□
第13回			□
第14回			□
第15回			□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習として、次回のプリントから保育実習・教育実習・サービス・ラーニングを通して学んだ子どもの姿と結びつけ、子ども理解の学習を２時間程度課す。事後学習として、授業内の資料やプリントを参照に２時間程度でまとめることを課す。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

レポートは返却し、課題の説明をする。授業内のミニテストは、テスト終了後に解説をし、共通理解を図る。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
	◇ 2018子ども発達DP2	保育者として子ども理解のための必須の知識と、資質能力や人間力を身につけている
	◆ 2018子ども発達DP3	子ども理解のために現場での問題や課題に向き合う実践力を修得している。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			40%	60%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

確認テスト

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし、プリント・資料を配布	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて紹介する	
2		
3		
4		
5		